

埼玉 GPN NEWS

Saitama Green Purchasing Network
埼玉グリーン購入ネットワークニュース
第7号 2011年11月

～環境への負荷が少ない商品・サービスの優先購入を進める
首都圏発の地域ネットワーク～

埼玉GPN NEWS 2011.11



対談 (株)サイサン川本会長

CONTENTS

- 対談 (株)サイサン 川本宜彦会長、江田会長
「環境をテーマとする財団を創って良かった」…………… 1
- 講演「震災とグリーン購入」
東北大学大学院COE 竹本徳子氏…………… 2
- 見学会、節電事例…………… 3
- 冬の節電対策、会員一覧…………… 4

「環境をテーマとする財団を 創って良かった」 株式会社サイサン 川本宜彦会長

埼玉GPN江田会長が、株式会社サイサンの川本宜彦会長を訪問し、株式会社サイサンの環境への取組等についてお聞きしました。



(株)サイサン川本会長と埼玉GPN江田会長

江田：御社の環境への取組について教えてください。

川本：私たちの仕事はガスを扱う仕事であり、最近ではガスワンというブランドを掲げております。ガスを扱う者としてフロンガス等の温室効果ガスの影響も考えなければいけません。そういった意味では当社は環境

問題と密接な関係を持っています。例えば廃棄された冷蔵庫等には、まだ冷媒としてフロンガスが含まれているケースがあります。こういったものを回収し、最終処理は誰がやるのかという事も考えなければいけません。販売から廃棄までの表と裏の部分に責任を持った形で対応することが、携わった者の務めであると考えています。

また、自動車燃料としてのLPガスについては、排気ガスがガソリンと比べてクリーンであるため、相対的に大気汚染物質の排出が少なくなります。この為LPガスを扱うことが、めぐりめぐって地球環境にやさしいことにも繋がると考えています。

江田：LPガスが今回の東日本大震災で見直されているというのは感じておられますか？

川本：はい。大災害において強いなと感じたのは、供給形態が異なる点です。電気や水道、ガスや通信といったライフラインはどれが途絶しても影響を受けますが、それは「ライン」として繋がっているが故に、物の理屈で途中で断絶してしまえば当然供給も止まってしまいます。一方、LPガスは個別供給ですので、住宅なら住宅、集会所なら集会所へと個別にボンベを設置します。また予備のボンベが置いてあるため一本が空になっても自動的に予備のものに切り替わり、ボンベが流失しない限り1ヶ月程度の軒下在庫が使用できます。もちろん強い余震があれば、安全を再確認する必要があり、パトロールや点検は欠かせませんが、緊急時は迅速に対応し、エネルギー供給が継続できます。

また今回の震災直後、ガソリンが手に入らない状況下においてもLPガス車は走らせることが出来ました。

江田：一方、環境への取組の一環として財団を設立されていますね？

川本：財団を創設して来年で15年になります。設立当時、活動テーマについて色々な案がありましたが、21世紀のキーワードは「環境」との思いから埼玉県

環境保全活動を支援する財団としました。今年4月には、新しい公益法人制度改革のもとで、公益財団法人へ移行しました。

これまでの14年間の活動において、延べ590団体へ約2億5千万円の助成をしてまいりました。分野としては、森林・里山保全、河川・湖沼の保全が大きな割合を占めますが、温暖化問題といった現代社会が直面する課題への助成も増えてきています。

助成先の各団体はそれぞれ熱心に活動しています。ご紹介したい活動として、狭山市の「不老川をきれいにする会」があります。会長の新井悟樓さんは、定年後、日本一汚いといわれた不老川のごみ拾いを一人で始められました。以来25年、今では地域の住民、自治会の人たちも参加し清掃を行うようになりました。汚いといわれた川には魚が戻り、川の周辺を散歩する人も増えたとのこと。一人の努力が地域の運動となったわけです。川の清掃は、ごみを拾うだけではなく、一人一人が川を守ろうという意識を育てることが重要なのです。こうした活動例を見聞きするにつけ、「環境」をテーマとする財団を創って良かったと思います。

環境が扱うテーマは広いし、新しい課題が次々と出てきます。財団へも様々な助成申請があります。財団としてはできるだけ広い視野で間口を狭めることなく、埼玉県環境を良くしようとの要請に対応していきたいと思っています。

これからもご理解とご支援をお願いしたいと思いません。

**東北大学大学院竹本徳子教授を招き
「震災とグリーン購入」をテーマに
埼玉グリーン購入フォーラム開催**

**「震災現場の実態とその支援のためのグリーン購入」
東北大学大学院生命科学研究科**

生態適応グローバルCOE 竹本 徳子氏

3月11日、午後2時46分に起こった東日本大震災。被災地の実態は場所により異なりますが、どこを見ても私が感じたことは「自然は強い」ということです。人工物を除けば、海、山、川の復活は早いと思います。瓦礫の量は2673万トン、一般ゴミに換算すると23年分だそうです。総被害額は16～25兆円とされています。

仮設住宅に対する考え方も変えなければなりません。プレハブ協会がお仕着せで作って、2年経ったらゴミになります。復興住宅としてきちんとしたものを



埼玉グリーン購入フォーラム

建てようという動きが始まっています。

福島は、今地震、津波、原発、風評と4つの大きな被害を受けています。

風評は、環境面から見ると予防原則があるので、グリーン購入的に言うと悩ましいものがあります。

企業の備えはどうだったのでしょうか。プランがあってもマネジメントに組み込まれていなければ役に立ちません。

心配なことは、原発の収束のめどが立っていないこと、ランドデザインがないこと。土地税制など法案が遅れに遅れています。システムとおカネがついてきて始めてアイデアが活きます。

ランドデザインを描いていく上で、どれだけリーダーが残っているかがキイです。リーダーが津波で流されてしまったところはバラバラです。

生態系からの恵みを活かして、人・海・田んぼそして海のつながりから復興を考える「海と田んぼからのグリーン復興宣言」が5月22日に出されました。復興についても生態系を考えて行って欲しいと思います。被災家屋の再活用や、地元の自然資源を地元経済に活用していくことが大切だと思います。エネルギーについても、バイオマス、小水力発電や地熱発電など、地域によって状況が違うので、何でもかかっていくか考え直す必要があります。農業の復興に対しても長期の購買予約や投資でカキの養殖などの復興に結び付けようという資金メカニズムが始まっています。グリーン購入がやるべきことは、都会と被災地を結ぶ仕組みづくりだと思います。

アメリカと同じ生活を全人類がすると地球が5つ必要になります。日本と同じ生活をすると2.5個です。持続可能な社会を作るためには継続的に、①地殻の物質の濃度が増えないこと（例えば、石炭を燃やしてもCO₂を増やさない）②人間社会の作り出した物質（化学

物質)の濃度が増えないこと③物理的な方法(例えば、山を開発する、魚を大量に捕る)で劣化しないこと④人々が自らの基本的なニーズを満たそうとする行動を妨げる状況を作り出してはならないことです。



竹本徳子氏

ゴミを出さないためには買わないことです。オール電化は原発で作られた夜間電力を使う仕組みです。食品の自給率。洗剤のパームオイルはオランウータンの食料を奪っています。全体を把握して地球レベルでものを見ていかなければなりません。そうしないと本当のグリーン購入になりません。企業は科学的知見に基づき環境影響評価をみなければいけません。サプライチェーンについて、どこから来ているかきちんとみてください。最後に一言

是非東北に遊びに来ておカネを落としてください。

(2011年6月15日 於：さいたま共済会館)

リサイクルと熱融通
(株)ユーパーツ、東京ガス熊谷支社
9月13日見学会

埼玉グリーン購入ネットワークは、学習会の一環とした見学会を9月13日(火)に熊谷市内にある株式会社ユーパーツと東京ガス株式会社 熊谷支社で行いました。会員事業者や大学生など14名が参加しました。

株式会社ユーパーツは、自動車リサイクル部品の販売を行っており、日本では、欧米に比べて自動車リサイクルの市場が狭い中、リーディングカンパニーとして活躍しています。リサイクル部品を使えば修理費が約半分以下になるうえに、二酸化炭素の削減効果も大きくなります。これは、ユーパーツと株式会社早稲田研究所が協同し部品毎に二酸化炭素削減量を算出、見える化を実現したからです。これにより全475部品、



(株)ユーパーツ

18,734種類の車両をデータ化し削減効果をお客様にも見えるよう見積りに記載、発信しています。この取組が平成22年に開催された「一村一品大作戦」全国

大会にて優秀賞・特別審査員賞を受賞しました。これからも地域に根差した企業として、リサイクル部品の地産地消をすすめていく方針です。

次に訪れた東京ガス株式会社熊谷支社では、屋上に設置した太陽熱集熱器から得られる熱を冷暖房・給湯に利用すると共に、公道を挟んだ隣接するホテル「マロウドイン熊谷」に熱融通をしています。このような



東京ガス(株)熊谷支社

民間建物間での熱融通は日本初です。熱融通に必要な動力源は太陽光発電を利用し一層の二酸化炭素削減を実現しています。また、天候により熱量が変動する事

態には、高効率ガスエンジンコージェネレーションシステムを導入し、その廃熱で補完しています。公道の配管利用は熊谷市が認可したもので、夏の暑さを地域の資源として活かす取組「あっぱれ!熊谷」に力を入れている事からも伺えます。このシステムは今後太陽熱の活用を進めていくうえでの課題である、熱の効果的な利用方法に対しての好事例と言えます。

私たちはこんなやり方で節電に成功しました!
~7月は30.2% 8月は30.6%の削減達成~
さいたま市産業創造財団

「いったいどのくらいの節電をしたらいいの?」「何をしたらいいの?」と、あたふたしているときに、我が財団主催の『節電相談会』に出席しました。先生の指導のおりに一つずつ節電アクション! その結果、30%以上の節電を達成できた秘訣をご紹介します。

~プロローグ~

エアコンは何台あるの? 蛍光灯は何本あるの? スイッチはどこあるの? それぞれの消費電力量はどのくらい? 「?」を調べて状況把握をすることが最初の一步でした。スイッチの横には配置図を貼り、全員が電気を消しやすい状態にしました。

~アクション1~

エアコンの消費電力量を抑えることが一番
エアコンの温度設定は28℃、風量設定はこまめに変更、ブラインドを閉めて間欠運転を心掛けました。消費電力量の小さな扇風機を配置し冷気を循環させたことで、体感温度を下げることに成功しました。もちろん涼しい日は窓を開けて空調は使用しませんでした。

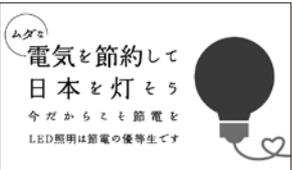
～アクション2～

照明の間引き・パソコンの設定変更
 照明は照度計で明るさを測り、間引きしました。パソコンは20分でスタンバイモード、5分でモニターの電源オフの設定をしました。スイッチ付きテーブルタップを使用し、待機電力を抑えました。

～節電成功の鍵～

先生に節電をするのに一番重要なことは節電担当者を決め、みんなに節電してもらうようにアピールすること、節電をするという意識を持つことだと教えていただきました。そこで、毎日、消費電力量を測り、『この状況だと〇〇%の削減になるでしょう！』というポスターを貼り出しました。全員にメール配信も行いました。今夏は、涼しい日が多かったこともありますが、何より一人ひとりが常に節電を心掛けていたことが成功の鍵だったと思います。

あったかスタイルで過ごす冬
 この冬の節電を乗り切るために



今年の夏は15%以上の節電をした事業所が数多くあります。

さて、この冬は。朝食をきちんと取り、身体の新陳代謝を上げることから1日が始まります。

日中はブラインドを開けて太陽の熱を取り入れるようにしましょう。暖房温度を20℃に設定することが要請されます。暖かい空気は上に移動します。サーキュレーター等を利用して暖かい空気を拡散させることにより、寒さを抑えることもできます。

パーテーションを置くことにより入り口からの風を防ぐことが出来ます。植物を置いたり加湿器を使うことにより湿度を上げ、体感温度を上げることが出来ます。

服装は？ 保温性のあるインナウェアが開発されています。下着にはこういったものを身に付けておくと良いでしょう。

カーデガンやジャンパーなど羽織るもの、ひざ掛けなどを用意しておくことも必要です。

首、足首、手首を暖めると、体感温度が上がると言われています。

「ムダな電気を節約して日本を灯そう！」グリーン購入ネットワークのキャッチフレーズです。

埼玉GPN会員一覧

順不同
 リそな総合研究所(株)、(株)ぶぎん地域経済研究所、(株)ハイディ日高、(株)テレビ埼玉ミュージック、大宮アルディージャ、浦和レッドダイヤモンドズ、(株)氏家製作所、埼玉日産自動車(株)、柏木建設(株)、武州ガス(株)、(株)ヤオコー、(有)タカザワ企画、(有)パル、(株)関東パイプ技研、(株)小山本家酒造、埼玉トヨペット(株)、ポラス(株)、リコージャパン(株)関東営業本部埼玉支社、望月印刷(株)、(株)埼玉交通、(株)イーシティ埼玉、新日本有限責任監査法人さいたま事務所、(株)大和ライト工業、(株)ピククルスコーポレーション、(株)FM NACK 5、(株)デサン、(株)タカヤマ、(株)アクセル、(株)ビージーサービス、武州産業(株)、(株)埼玉りそな銀行、(株)ビルテクノマイニチ、(株)イー・シー・エス、(株)松永建設、(医)誠昇会北本共済病院、(株)マツハ、税理士法人レッドサポート、(株)武蔵野銀行、(株)ウイロウベル、(株)アルク設計事務所、埼玉信用金庫、(株)八洲電業社、(株)エンライト、(株)ワーム、(株)アライ、(株)ジャスト、東京ガス(株)埼玉支店、(株)ユーパーツ、溝口洋紙(株)、(株)エコ環境システム、(株)松柳園、(株)甲商、(株)ビルヒット、(株)東京化成製作所、アピカ(株)、ケミテックシー・エス・エス(株)、武正(株)、北海製罐(株)、コクヨマーケティング(株)埼玉支店、富士ゼロックス埼玉(株)、国際チャート(株)、計測サービス(株)、三国コカ・コーラボトリング(株)、(株)ベルエール、(株)ハイクレー、フォーレスト(株)、サンケイ鋼器(株)、大成ロテック(株)、(株)ジャパンアート、(株)アートドットコム、(株)シール堂印刷埼玉事業所、(株)埼玉ディエスジャパン、(社福)埼玉福祉会、毎日興業(株)、(株)与野フードセンター、マルキュー(株)、(株)メガネットワーク、(株)埼玉新聞社、(株)国太楼、(株)エヌ・ティ・ティ・クオリス、(株)太陽商工、戸田市、埼玉県、入間市、さいたま市、日高市、川越市、川口市、生活協同組合さいたまコープ、(特非)EEハーモニー、埼玉県商工会連合会、(財)さいたま市産業創造財団、(財)埼玉県産業振興公社、埼玉中小企業家同友会、さいたま商工会議所、埼玉県中小企業団体中央会、(財)埼玉県公園緑地協会

■入会案内
 団体会員、サポーター(個人会員)があります。申込書はHPからもダウンロードできます。ぜひ一緒にグリーン購入を。

■発行：埼玉グリーン購入ネットワーク
 〒337-0053さいたま市見沼区大和田町2-1322-2大和田NPOプラザ内
 TEL.048-749-1217/FAX.048-749-1218
 E-mail saitamagpn@yahoo.co.jp
 Home Page http://www.saitamagpn.jp/